



ひのたにえん

2023年度
春号



ひのたに園にも もうすぐ春が来る

ひのたに園 副園長 大濱 翼

令和5年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更なり、「日常」を少しずつ取り戻した年ではなかったでしょうか。

ひのたに園では3年の間に2回の集団感染があり、その時の感染対応は利用者の皆様、職員の協力で乗り切ることができました。感謝です。（現在でも引き続き園での生活で一部で感染対策の協力をお願いしています。）5類への以降後は園内での日中活動、クラブ活動や地域の方々との交流も再開しました。月に1回の日野レクリエーション協会「とんぼ」の皆様に来ていただき利用者の方・職員と室内ゲームを通して大きな笑い声とともに、楽しい一時を過ごしています。利用者の方からは「今日は楽しかったわ。今度はいつ来るの。」との声が聞こえてきます。また、日本赤十字社滋賀県支部日野町分区の皆様も清掃のボランティアに来ていただき、日頃はなかなかできない細かなところまで対応していただいています。ありがとうございます。施設見学も再開しました。この1年で多くの団体や個人の方が見学にお見えになりました。その方々の第一声が「きれいな施設ですね。」とおっしゃっていただいています。「利用者の皆さん、職員が日頃から、きれいにしていますから」とお伝えするとともに大変うれしい気持ちになります。

昨年で大きな動きといえばやはり町内のマルキ印刷さんの建物をお借りし、一部リフォームを行い昨年5月2日に「つどえば」がオープンしたことです。（2023年度夏号でも紹介しています。）利用者の内職作業の場をつどえばに移動し、園から約1.5Kmの距離ですので月曜日から金曜日まで歩いて作業に行っています。毎月第4土曜日には子ども食堂を開催し、毎回約30名の方々が来店されます。地域の方からは「何をやっているの。」「今度のぞかせてもらうわ」と、参加者された方からは建物の空きスペースで「映画会をしたらもう少し来てくれるじゃない。」等いろいろな声をいただいています。さらに、つどえばの予定や活動を発信するLINEビジネスには多くの方が登録していただいています。だれもがつどえる場所づくりのため、これからもいろいろな活動を行っていきます。

昨日利用者の皆さんが日中活動で、満開の桜の花の貼り絵を作成され廊下に掲示しています。もうすぐひのたに園にも春が来ます。今年は利用者の皆さんと職員ともにまずは健康に留意し、もっともっと元気なひのたに園を目指していけたらと思っています。

最近のひのたに園



インクルーシブ食堂に参加しました！



12月23日わたむきホールで行われた「インクルーシブ食堂クリスマス会」に参加しました！ひのたに園は「出張キッチンつどえば」ということで、利用者とともにオムライスやひのたに園で採れた野菜の販売をし、利用者も台に上がって張り切って配っていました。また、太鼓、陶芸の体験コーナーも行い、地域の方にも楽しんでいただき、非常に盛況でした。最後のじゃんけん大会では、利用者の三家さんがお菓子を当て、2月まで楽しんで食べておられました。（吉村）

“みかた”の多い美術館展



作品を見て思い出を語る様子



思い出して、みるの展示コーナー



実際に音を鳴らす

滋賀県立美術館で開催されていた「“みかた”の多い美術館展」の鑑賞に行きました。

今回この展覧会の“みかた”を提案するひととしてひのたに園の伊藤勝さん、近藤博文さん、H.Y.さん、三家外史雄さんが参加されており、事前に行われた2回のワークショップでの鑑賞の様子から「思い出して、みる」の“みかた”が生まれました。

展覧会では様々な人が考えた“みかた”があり、実際に触ることができたり、音を鳴らすことができたり、みなさん興味津々でした。自分たちの“みかた”で展示されているコーナーでは、「この間、見た絵や」「こんなに大きかったんだね」と実際の作品を真剣に鑑賞されていました。当日は学芸員のギャラリートークもあり、それぞれの作品について実際に話を聞くこともできました。「思い出して、みる」のコーナーでみなさんのことが紹介されると、少し照れくさそうにあいさつをされていました。（藤田）

糸賀一雄記念賞音楽祭

糸賀一雄記念賞第22回音楽祭が、昨年12月3日（日）甲賀市にある、あいこうか市民ホールにて行われました。この音楽祭のために結成された「甲賀NINJAリドンドンSワークショップグループ」にひのたに太鼓 青龍のメンバーも参加させて頂きました。プロ和太鼓奏者、青沼保人先生の指導のもと、甲賀市小佐治地区に古くから伝わる「すいりょう節」をテーマに和太鼓の演奏をさせて頂きました。



ワークショップグループには甲賀市、近郊にお住いの一般公募の方、そして小佐治地区を拠点に活動する「小佐治すいりょう太鼓」の皆さんがおられ、青龍メンバー以外の方との演奏は初めてですが、練習の甲斐があり楽しく演奏ができました。本番は小室等さんをはじめとするプロミュージシャンの方々が色々な楽器で演奏に加わって下さり、とても華やかな演奏になりました。楽しく、よい経験をさせて頂いた音楽祭でした。（横川）



「俺が行けば大丈夫って、信用あったから。」

岡崎保雄さん(63)

「若いころはバンドやってサーフィンやって、映画も好き」と多趣味な岡崎さんにお話をお聴きしました。



右足でリズムをとりながら太鼓を叩く岡崎さん

>滋賀県のご出身ですか？

東京。東京生まれ東京育ち。こっち（滋賀）に来る前まで42年くらい東京。

>なんで滋賀県に来られたんですか？

女房が滋賀県で。女房とはインターネットで出会った。インターネットで知り合って、東京で結婚生活をして。女房の実家を頼って、滋賀に来た。

>東京でどんなお仕事をされてたんですか？

水道屋さん。ずっと。30年くらい。

>水漏れ修理とかですか？

それもやってたし、パソコンで図面書いたりもしてた。図面から発注まで。JRの仕事が多かったね。駅の仕事。駅の配管とか、宿舍の工事とか。国立にJRの研究所があるのよ、そこで新幹線とかリニアモーターカーとか、そこらへんの工事もやったな。違うところで誘われてトンネル掘ったりもしたな。社会的には「俺が行けば大丈夫」って、信用あったから。指名があったのよ。

>ひのたに園では太鼓やっておられますよね、音楽好きなんですか？

和太鼓好きだから、音が好き。ドラムやってたから。中学の時バンド組んで、キャロルとか。ドラムは中学のとき新聞屋でアルバイトして買ったんだよ。その時にロックバンドのオーディション、『ぎんざNOW!』とか、ああいうの出ようと言ってたんだけど。デモテープ作って出せよって同級生に渡してたのに、出さなかった。コピーバンドでキャロルのラストライブをコピーしてやって。みんなうまかったんだ。あれ出してたら今どうなってたか分からないね。

俺がドラムやってたから、娘にもピアノ習わせて。音楽の学校に行かせてやりたかった、音大。でも行かないで栄養士になった。ピアノは俺がやらせたかった。家にピアノも買って。リチャード・クレイダーマンの楽譜で練習させたり。俺は弾けないけどね。

(聞き手・文 田中)

人生いろいろ

「足怪我したね。左にいまだにある。もうしぬかと思った。」

近藤博文さん(69)

とても穏やかな性格で、安心感を与えてくれる近藤さん。そんな近藤さんに故郷の思い出をお聞きしました。

>近藤さん最近ドラマで五島列島の話をしてたって言ってましたよね。

生まれは九州の五島列島。うなぎが泳いでて、よく釣ったよ。自分で捌いて食べてた。頭に釘打って、さーっと。

>こどものころからいろいろ経験してはりますね。仕事は何をされてたんですか。

神戸の鉄工所いった。靴の型を鉄で作る。鉄をブラインダーですって。

足怪我したね。不注意で16歳でできた。左にいまだにある。もうしぬかと思った。痛かった。

でも5年は勤めやって言われて、5年おった。

>5年いたんです。じゃあ、会社の雰囲気は良かったんですか。

悪かった。ガラ悪い。親戚の人が4人おったから、まだあれやったけど。怖いニイちゃんもいた。でも、人間関係はよかった。風呂行こって銭湯行ったり、銭湯いったら背中刺青ぶわって、びびるお笑

>その後は何をされてたんですか。

五島列島帰って漁師。ふねも乗れるよ。むじゃこっていうこんなちっさいのとなら、50万やもね。ようけおるからね、これなんだろうと思って、これがむじゃこっていうものやって言われて。僕の方じゃなくっておじさんの方が儲かった笑

>漁師した後は、なんの仕事をしてたんですか。

パチンコ屋。5件あるもんね。街は小さいけど、漁師の人が多。月がでないときは、船でんやん。そのときはパチンコに来てる。お月さんの時は魚が取れないって。

>店で怒り出す人はいなかったですか。

おるおるおる。「おらー入らへんやんこれ！」って。「すみません」って、マネージャー呼んできて、頭下げて。大変やけど楽しかった。(聞き手・文 北岸)



「一番美味しい魚は石鯛！」と近藤さん

バリアフリーとは安心できること

2024年1月18日（木）日野町町民文化会館わたむきホール虹にて「誰もが楽しめるバリアフリー演劇in日野『星の王子さま』」を開催しました。平日昼間の開催にもかかわらず、220人の入場者を迎えました。

バリアフリー演劇とは、簡単に説明すると字幕、舞台手話通訳、副音声等を駆使して、だれもが楽しめる演劇を目指す演劇公演のことです。



さて、公演当日、フィナーレの出来事です。客席から舞台に駆け上がったフリースクールの子もたちとひのたに園の利用者、聴覚に障害のある方、何も障害の無い方などが、星の王子さまを囲むように舞台上で、手話を交え、応援歌を歌いました。その様子を見て、私は「バリアを放っておかないこの取り組みは、会場全体を安心できる空気に包むのだなあ。」と感じました。

観客席で終演の挨拶の準備を忘れてその光景に見惚れていた私は、恥ずかしながら、挨拶の途中で言葉を詰まらせてしまいました。聞こえる人にも聞き取れない挨拶となってしまいましたが、字幕があって救われました（苦笑）

このような機会を提供くださった権藤説子さんはじめ、東京演劇集団風のみなさま、ご協力いただいたすべての皆さんに御礼申し上げます。（齋藤）



呑んべえ役で出演した
小川一郎さん

『星の王子さま』の舞台の募集を見て「セリフありの役をやってみよう」と思い募集の紙に名前を書いておきました。「酔っ払い」の役をもらい、セリフは5つくらいなのでそのままの文どおりに言おうと覚えました。あとは「間」とか声のトーンとか部屋でこっそり練習したので、OKと思ってそれからなぜか前向きにトキメキ過ぎて、当日になり楽屋へも「毎日ここに来ている」という感じではじまりました。セリフ以外の事は当日にアイデアがわいて登場から退場までの数分は飽きないで見てもらえるだろうと思い、楽しさ優先で最後までできました。「よかった〜」と最後に思えば良かったと思っていたのでそう出来て良かったです。皆様には心良く見てもらいありがとうございました。

生き抜くちから

-ひのたに園の利用者に聞いてみた-

多様な人生を送ってきたひのたに園の利用者から、自身の経験に基づいた生き抜くための考え方を教えていただくコラムです。今回は『人生に夢や目標は絶対必要なのか』をテーマに利用者にお聞きしました。（聞き手・文 北岸）

➤光男さんって小さい頃、夢とか目標みたいなものって何かありましたか？

目標としてはないと思う。兄弟が多いもんで、俺の下にも3人おるからね。せやから中学校から学校終わってから、友達で紹介で新聞配達したり、牛乳配達したり。

➤家族の事情で優先するべきことが多くて、目標を抱く発想もなかったって感じですか。

そやな。健康な親ではなくって、半身不随やからな、親父は右があかん、おかんは左があかんってだけやから、2人とも働きに行くとるけど、普通の労働はできひんわな。ほれで助けようと思ったら、俺ら兄弟が助けるしかなかった。

➤どちらが正解というわけではないですけど、夢とか目標なかったけど、自分の生きてきた人生よかったなと思いますか？

ほらーな、仕事とかアルバイト手伝って、それでおかんやらがだいぶ助かるとおもうんや。口では言わへんけど、多分思ってると思うで。目標はあったらええやろうけど、立てる暇もなかったでな。そのときは、お金を儲けてこな生活でけへんかったで。働いて、稼いできて親助けるんやったら、親喜んどるんやったらそれでいいんやし。賛成するわけでもないんやしな。



山本光男さん

※右QRコードを読み取ると、山本さんの「人生いろいろ」が掲載された過去の広報誌を閲覧することができます。



glow
社会福祉法人 グロー

救護施設「ひのたに園」広報誌(2023年度春号)
2024年3月発行

〒529-1601 滋賀県蒲生郡日野町松尾121
TEL 0748-52-0645 FAX 0748-53-2598